

※文字の大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート		※事務局記入欄
※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、< award@ml.nits.go.jp >宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。		受理No. : A-31
【学校名・氏名】 茨城県立水戸桜ノ牧高等学校 ・ 福地千文	【応募部門】 カリキュラムマネジメント実践部門	
【修了研修名】 H30 年度 教職員等中央研修次世代リーダー育成研修		
【活動名】 学習する集団づくり～カリキュラムマネジメントを通して～		
解決すべき課題： ※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？ （１）授業を行う上でもっとも気づきにくい「わかったフリ」をする生徒 →特に演習形式の授業では、解答解説を見たり聞いたりする上で、理解し知識が身についている生徒とただこなすだけになってしまっている生徒が混在するのが課題 （２）記述力の低下 ☆記述が書けない。小論文・志願理由書も同じ。文章を書くことに苦手意識を抱いている。 →記述力・説明力を向上させることが、推薦入試の志願理由書、小論文、面接や国公立二次対策につながる。進路指導リンクさせる。 （３）演習における主体的な学び ☆3 年生になると演習形式の授業が増える。受け身になりがちである。特に理系。 →課題解決型の学習形態にすることで、協働を意識させ主体性を育む。進学後も活用できるスキルだと説明。		
目標・方針： ※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？ （１）話すにも書くにも語彙力は必要になる。語彙力を増やすような働きかけをする →暗記させるのではなく、ペアで問題を出し合う作業を挟む →学校図書館との連携。学級文庫を設置。 （２）記述の部分も最後まで書かせる →センター試験でしか国語を使わない生徒や理系の生徒は国語の記述問題を回避する傾向があるので班課題として取り組ませる。 →必ず自分の出した答えに責任を持って説明をさせる。		
活動内容： （１）授業前に 5 分間の語彙力 UP の時間 →入試に使われる現代語用語集や古文単語集を使い、語彙力アップを図る。ただ単に暗記の時間ではなく、ペアで問題を出し合う作業を挟む。（3 分読み込み、2 分問題出し合い） →学校図書館と連携して面接や小論文に対応している内容の本を 20 冊ずつ選書し、文系 5 クラス・理系 3 クラスに合った内容の学級文庫を設置する。 （２）演習を課題解決型で解き、協議時間を入れる。曖昧なままで終わらせないを合い言葉に →班で記述欄を埋めることを解決すべき課題として設定した。慣れるまでは記述問題が 2 問あるところ 1 題は必ず埋めるように指示。慣れてきた班には記述は全て埋めるようにと指示を出した。その後どうしてその答えになったのかを説明させる。解答選択がばらけたら班の統一見解を出させる。		

【実際の授業の流れ】		【学級文庫の様子】
古典演習	① 5 分間単語力基礎力 UP 時間	
現代文演習	② 問題演習（20～30 分）	
（55 分）	③ 協議時間（10～15 分）	
	④ 解答解説チェック時間（10 分）	
		
活動の成果： ・現代文でも古文でも、わからないところはわからないと聞くことができるようになった。 ・自分で問題を作ることで問われるポイントが明確になり、設問に対する注意力が増した。 ・協議時間を入れることで、適当に選択肢を選んだり、記述の解答を作ったりすることが減少し、協議時間の際、根拠をはっきりと述べられる生徒が増えた。 【生徒アンケートより】 ・自分で友達に問題を出すことで何を聞かなければならないのか、どういう風に質問されるのか想定しながら問題を読む力が付いた。 ・なんとなく選んでいた設問が説明しなきゃならないとなると根拠を見つけておかねばならないので、文章の読解を細かくするようになった。 ・記述を最後まで書く生徒が 9 割を越えた。始める前は記述欄が埋まらない生徒が 3 割いた。 ・学級文庫を手に入る生徒が多くなった。その結果、面接や志願理由書の材料とすることができた。 ・曖昧な理解や、わかったフリの生徒がいなくなった。		
アピールポイント（アイデアや工夫）： （１）問題を出し合うこと →自分で問題を作ることで覚えるべきポイントが明確になる。 （２）記述演習問題を課題解決型にした →個人取り組むと手が止まってしまうひとも、わからないことは聞ける雰囲気になってきているので、解き方やヒントなどを聞き出し、記述に取り組める。友達の丸写しをせず、自分の意見を自分なりに書けるようになった。 （３）学級の中に文庫を設置し、一ヶ月に一回本の内容が変わるシステムを学校図書館と協力して作った →司書の方と図書委員の協力を経て、クラスの中に自分の進路に合った本が身近にあるような環境が作れた。学年ごとにそのシステムを取り入れられた。		